

## 冬至には石川県産かぼちやを ～抑制かぼちやの生産拡大～

農業総合研究センター 中央普及支援センター



かぼちやの収穫風景



かぼちや栽培指導の様子

日本では昔から冬至にかぼちやを食べ無病息災を祈願する風習があることから、12月は市場でかぼちやの取扱量が増加します。

しかし、県内で一般的に栽培されているかぼちやの作型は、4月中旬に定植を行い、7月中旬に収穫し出荷するものであり、冬至用の作型である抑制かぼちやは、8月上旬に定植を行い、10月下旬～11月上旬に収穫し、乾燥後に順次出荷するもので、現在、県内では生産量は少ない状況です。このため、冬場は輸入品や九州産の入荷が多くなっていますが、近年、地産地消への関心の高まりから県内産の出荷増の要請が強くなっています。

こうした市場のニーズに応えるため、県、全農、JAが連携し、全県的取組として、冬至向けに出荷する抑制かぼちやの生産拡大に平成22年から取り組んでいます。

生産拡大にあたり、当センターでは栽培指針を作成し、県内5か所にある農林総合事務所との連携のもと、栽培指導に活用しながら生産者に推進してきました。この結果、春作のかぼちや、ハウスすいかの跡作など、加賀から能登までほぼ県内全域で導入され、昨年度の栽培面積約24haに対し、今年度は約38haにまで拡大しました。

また、良品質・収量安定を図るため、農業総合研究センターが、果実の色により収穫時期を判断できるカラーチャートを作成しており、さらに着果安定や省力化技術の開発に取り組んでいます。

今後は、各農林総合事務所の普及指導員による作付けの推進や栽培指導、農家等を対象とした現地検討会を開催し、関係機関が一体となって、さらなる栽培面積の拡大を目指します。

これからは県産かぼちやで冬を元気に乗り切ることができそうです。

問い合わせ先：農業総合研究センター 中央普及支援センター  
(076-257-9150)